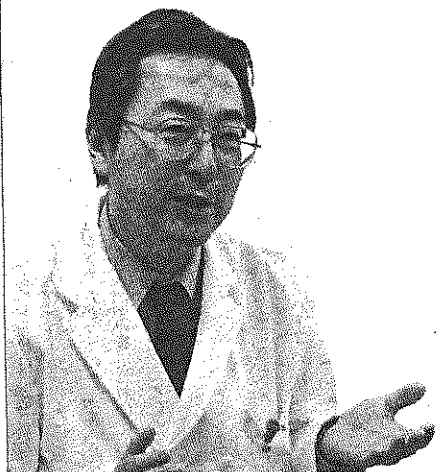


肝がんの原因の80%以上が肝炎ウイルス

ウイルス性肝炎は完治が期待できる時代に

ウイルス性肝炎の早期発見・早期治療で肝がん予防へ



徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
消化器内科学分野 教授

高山 哲治先生

肝炎ウイルスに感染したまま放置していると、無症状のうちに肝硬変や肝がんという重篤な病気に進行する可能性があります。平成24年の国の統計によると、特に徳島県はウイルス性肝炎による死亡率が全国ワースト3位、肝がん死亡率は全国ワースト6位といずれも全国平均を上回っており、早急な対策が求められています。そこで、肝炎治療に取り組まれている徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部消化器内科学分野の高山哲治教授に、ウイルス性肝炎の基礎知識や最新の治療法について伺いました。

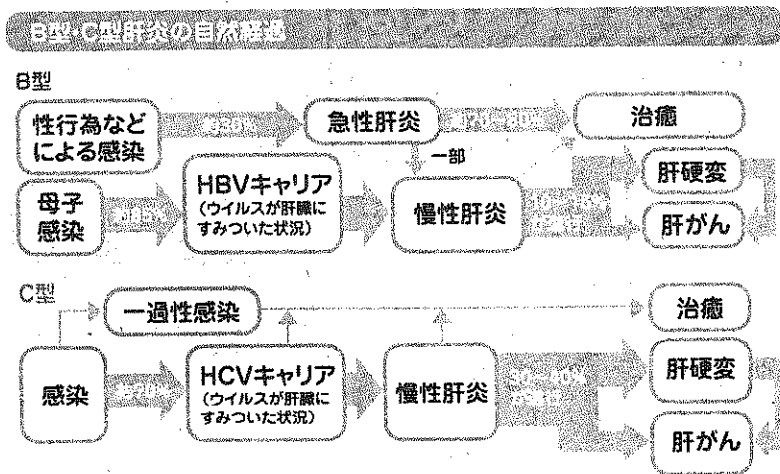
肝硬変や肝がんを引き起こすウイルス性肝炎

ウイルス性肝炎は、A、B、C、D、E型などの肝炎ウイルスへの感染によって肝臓が炎症を起こし、細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなる病気です。中でもB型、C型肝炎ウイルスに感染すると慢性肝炎になりやすく、将来的に肝硬変や肝がんになる可能性が高いため注意が必要です。

B型肝炎の場合、急性から慢性へと移行することはいくつか、現在のB型肝炎患者さんのほとんどは、母子感染によりキャリア（ウイルス感染しているが肝炎は発症していない状態）となり、のちに発症して慢性化したものです。B型肝炎患者の約10〜15%が肝硬変や肝がんに移行するといわれています。また最近では、こうした従来の母子感染によるB型肝炎ではなく、性的接触によって感染するB型肝炎が都市部の成人を中心に増えていることが問題になっていきます。

C型肝炎ウイルスに感染すると約70%が慢性肝炎に

C型肝炎ウイルスに感染すると約70%の人はC型肝炎を発症し、自覚症状がほとんどないまま10〜30年のうちに肝硬変や肝がんへと進行することがあります。主に血液を介して感染するもので、1992年以前に輸血した人や大きな手術をした人、注射針の使い回し、入れ墨の経験がある人などは感染リスクが高いといえるでしょう。



肝がんの原因の80%以上がB型・C型肝炎です。感染したまま放置しておくとも慢性肝炎になり、肝硬変、肝がんに移行します。

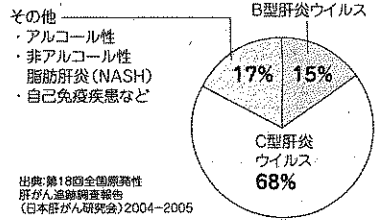
肝がんの原因の80%以上がB型・C型肝炎

日本では現在、毎年3万人以上の人々が肝がんになっていきますが、肝がんの原因の80%以上がB型、C型のウイルス性肝炎によるものです。肝臓は「沈黙の臓器」といわれるように、肝炎ウイルスに感染して慢性肝炎になっても自覚症状がほとんどありません。そのため本

人が気づかないまま、病気が少しずつ進行し、肝硬変や肝がんを引き起こすことがあるのです。特に自分がウイルス性肝炎であることを知らずに生活している潜在患者さんがたくさんいることが社会的にも問題になっていきます。ウイルス性肝炎は早めに見つけてきちんと治療すれば、手遅れにならないことがあります。肝炎ウイルス検査をまだ受けていない人は、ぜひ受けてみてください。

肝がんの予防

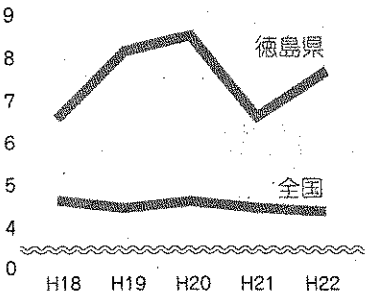
肝がんの原因の80%以上は肝炎ウイルス



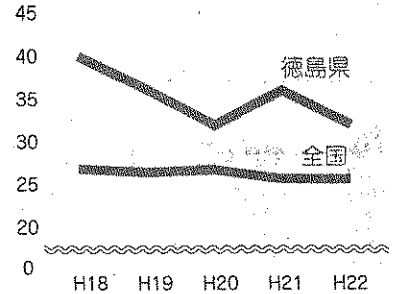
肝がんのリスクが高い人

- 1992年以前に輸血を受けた
- 昔、大きな手術をした
- 家族が肝臓の病気にかかっている
- 過去に肝機能の異常を指摘された
- 入れ墨をしたことがある
- 不衛生な状況でピアスの穴を開けた
- 鍼治療で使い回しの鍼を使った
- 不特定多数と性交渉をした

ウイルス性肝炎患者数(人口10万人)



肝がん(肝がん)患者数(人口10万人)



※徳島県肝臓病対策推進計画より

肝がんウイルスの感染者の推計

	全国	徳島県
B型肝炎ウイルス	110~140万人	6,900~8,800人
C型肝炎ウイルス	190~230万人	12,600~15,100人
合計	300~370万人	19,500~23,900人

※平成16年度厚生科学研究所補助金肝炎等感染症急激疫学対策研究事業報告書(吉澤班)より推計。

検査結果が陽性の場合には放置せずに早かに受診を

簡単な血液検査で感染の有無がわかる

肝炎ウイルスに感染しているかどうかは簡単な血液検査でわかります。保健所や徳島県が委託した指定医療機関では無料で行っています。自分がかかっているかどうかかわからない方は早めに検査を受けてください。

平成24年の国の統計によると、徳島県はウイルス性肝炎(慢性および急性のB・C型肝炎等)による死亡率が全国ワースト3位、肝がん死亡率は全国ワースト6位

と、いずれも全国平均を下回っています。おまわり/県内にはまだ検査を受けていない方が、検査を受けていても結果を覚えていない方が、その検査が陽性であっても適切な治療を受けていない方がたくさんいらっしゃるため、早急にかつ推測されます。

検査の結果、肝炎ウイルスに感染していることが分かったら、速やかに医療機関を受診して、現在の肝臓の状態を診てもらいましょう。また、過去に肝炎ウイルス検査で陽性と言われたことがある方は、自覚症状がないからといって放置せず、早めに医療機関を受診するようお願いいたします。

最新治療で肝炎は治癒、またはコントロールが可能に
肝炎の治療法は一昔前に比べて格段に進歩しています。ウイルスを完全に排除したり、病気の進行を抑える治療も可能となり、今やウイルス性肝炎はコントロールができる時代になってきました。

特にC型肝炎の場合、インターフェロン注射に2つの経口薬を併

用する治療を受けたと、85%以上の効果が認められるようになりました。さらに、新しい治療法も開発されており、さまざまな治療効果の向上や、副作用・通院などの患者さんの負担軽減にもつながることを期待されています。以前に治療を受けたが効果がなかったという方や、治療費の負担が大きくなって治療を受けられなかったり、途中で治療を断念した方も、あきらめずにもう一度肝臓専門医に相談していただければと思います。

ウイルス性肝炎は感染を知らずに放置していることが一番のリスクです。ご自身の体を守るためにも一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。ウイルス性肝炎は、今では治療またはコントロールが可能で病気が治ります。ウイルス検査が陽性の場合、必ず医療機関を受診し、適切な治療を受けてください。そうすれば、肝硬変や肝がんなど重篤な肝臓病のリスクを確実に減らすことができます。